

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

## ②施設・事業所情報

名称：くぬぎ保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：古屋 眞知子	定員（利用人数）：30(29)名	
所在地：〒216-0005 川崎市宮前区土橋 1-4-5		
TEL：044-750-9889	ホームページ： <a href="https://www.kakinomi.com/kunugi/">https://www.kakinomi.com/kunugi/</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2019年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：学校法人柿の実学園		
職員数	常勤職員：10名	非常勤職員：5名
専門職員	（専門職の名称）：名	
	保育士：12名	栄養士：2名
	子育て支援員：1名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	居室：1歳児室	設備：調理室
	居室：2歳児室	設備：配膳室
	居室：3歳児室	設備：調理前室
	居室：4歳児室	設備：調理事務所
	居室：5歳児室	設備：調理便所
		設備：事務室
		設備：医務スペース
		設備：シャワーユニット
		設備：乳児便所
		設備：幼児便所
	設備：トイレ	
	設備：園庭	

## ③理念・基本方針

## &lt;基本理念&gt;

子どもの最善の利益を考慮し、子どもたちが「よりよく育つ」ことを願い、自然に囲まれた施設で五感を通じて「育ちあいの場づくり」を基本理念とする。

## &lt;保育理念&gt;

●保育園は、保護者の皆様の就労や家庭等の事由により、子どもの養育等が出来ない場合に、児童福祉法に基づいて、保護者に代わって子ども達を保育するところです。

●くぬぎ保育園は、健全な心身の発達を図ることを目的とし、子どもの最善の利益を考慮し、子どもたちが「よりよく育つ」ことを願い保育を進めていきます。

●保育園は集団での生活を中心に、たくさんの友達と一緒に生活する場です。様々な活

動を通じての「育ちあいの場づくり」を基本理念として運営致します。

<保育方針>

1. 一人ひとりの気持ちを受けとめる保育
2. あったかーいふれあい保育
3. 子どもとの共有・共感を大切に作る保育
4. 楽しさと興味を育む保育

<子どもたちの保育目標>

- 優しい心 相手の気持ちを思いやることの出来る仲間づくりをする。
- 強い心 自分で考え、見通しをもち、行動する、生きる力を育てる。
- 豊かな心 美しいものを見て、感動する心と豊かな発想と想像力を養う。

④施設・事業所の特徴的な取組

<くぬぎ保育園の特徴的な取組> (基本情報 I-3 の記載事項)

●自然がおりなす四季を、五感を通じて楽しみ、思いっきり体を動かし様々な経験をすることで、他児とのかかわりや異年齢児・地域の方々との交流を持つことで思いやる気持ち、優しい気持ちを育ててほしい。そのような願いから、私たち保育者は、子どもの主体性を大切に、気持ちに寄り添い共感し、いつも笑顔で和気あいあいとしたあったかーい保育園環境を提供しています。  
また、保護者の気持ちにも寄り添い、一緒に子育てを楽しみながら、子どもの成長を見守っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年09月27日(契約日) ~ 2024年03月25日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	初回(年度)

⑥総評

【くぬぎ保育園の概要】

●くぬぎ保育園は、平成31年4月1日に開設し、学校法人柿の実学園(以下、法人という)の運営です。法人は、昭和37年に全人教育(知・徳・体・聖の調和)を掲げて柿の実幼稚園を設立し、昭和56年に「学校法人柿の実学園」とし、61年の歴史を持つ名門幼稚園・法人です。現在、「学校法人柿の実学園」経営園が12園、関連の経営園が3園、計15園の保育園ネットワークが整い、「柿の実学園グループ」の保育体制を構築しています。法人グループ園は、多くの子どもたちと共に、幼稚園・保育園の垣根なく、共に学び、遊び、笑い合い、柿の実学園の“わ”を広げていきたいとの思いで、地域のニーズに合わせた保育事業を行い、地元根付けるよう目指しています。

●くぬぎ保育園は、東急田園都市線宮前平駅より徒歩6分程と利便性も良く、近隣には自然豊かな公園が多く、子どもたちは四季折々の自然と触れ合い、伸び伸び遊べる環境です。また、小・中学校や区役所・図書館等もあり、子育て世帯に適した地域です。くぬぎ保育園は、3階建てマンションの1階部分を専有し、定員は30名、1歳~5歳児までの保育を実施し、現在29名の園児が在園しています。小規模保育園ならではの特徴を生かした異年齢児活動を展開し、みんなで一つの大家族『くぬぎっこ』をスローガンに、「あったかーい」想いを大切に兄弟で過ごすような保育を実践しています。

●くぬぎ保育園の子どもたちは、「柿の実幼稚園」にある自然そのままの形状を生かし

た大自然の中で、アスレチック体験や山の中の探検村・ピザ窯・陶芸体験・畑等の体験をしています。日常的に自然との関わりを保育の中に取り入れ、楽しく活動の場を広げています。様々な体験を通して、遊びから五感を養う保育を展開しています。

#### ◇特長や今後期待される点

##### 1. 【自然と触れ合う保育】

くぬぎ保育園（以下、当園という）は、恵まれた自然環境を生かし、地域に点在する公園に積極的に出かけしています。園内の散歩マップには、公園の情報が細かく記載され、子どもたちの年齢やその日の状況に合わせて、四季折々の自然に触れ合っています。調査日には幼児の散歩に同行しました。前々日の初雪がまだ残り、園庭には子どもたちが作った雪だるまが飾られていました。5歳児は3歳児をサポートし、保育士のお話を良く聞いて、地域の方に挨拶、交通ルールを守る等の姿が見られました。公園では、雪の感触の違い（ザラザラ、フワフワ、カチカチ）や、発見（日当たり、日陰）に目を輝かせ、友だち同士で伝え合っていました。氷をガラスみたいと表現する等、体験を通して豊かな感性が育まれています。また、法人グループ園として、柿の実幼稚園の豊かな自然（アスレチックや山の中にある探検村、陶芸体験、畑等）も共有でき、園バスで出かけます。当園のスローガンの1つ「自然と友達になろう」を実践しています。今回の利用者（保護者）アンケートの設問「季節や自然との触れ合いが保育の中にも感じられますか」では、満足回答率91%と高い評価を得ています。

##### 2. 【個性を伸ばす保育】

保育理念「子どもたちがよりよく育つ」を前提にした年齢別カリキュラムを基に、子どもの要求や主体性に合った保育ができるよう環境を整えています。常に、職員は子どもたちの目線で話を聞き、穏やかに対応しています。各室内には導線に合わせた絵カードが貼られ、時計の長針・数字に果物の絵がある等、子どもたちが見通しを持ち自分から動けるように配慮しています。また、職員同士のチームワークが良く、その日の子どもたちの状況を把握し、子どもと挑戦したいことを計画に沿って実施する等、子どもたちの遊びの中から、学びにつながるように工夫しています。1歳・2歳児クラスも幼児との交流が日常的にあり、笑い合いながら遊んでいる場面が多く見られ、「おもいやり」・「あこがれ」等が育まれ、基本理念「育ちあいの場づくり」が実践されています。年長児は、就学に向けて午睡しない時間に、宮前図書館に散歩に出かけていました。行き帰りの際は、保育者が標識に興味を持たせ意味を知らせています。図書館から帰園した際、「科学の本が面白かった！」と目を輝かせて話す姿が印象的でした。利用者（保護者）アンケートでも「個性に合わせた保育」・「一人ひとりを大切にしている」・「手厚い保育」等々の意見が多く寄せられ、保育に対する満足の高さが窺えます。

##### 3. 【食育の推進】

当園の食育年間計画に沿って、「食」を身近に感じてもらえるよう、様々な食材に触れることやプランターでの菜園活動はもとより、「ダシの飲み比べ」「野菜の浮き沈み」等を実施しています。ダシ（煮干し、鰹節、昆布）を見て、触り、香りを嗅ぎ、舌で味わう体験です。結果は煮干しが一番人気でした。野菜の浮き沈みでは、身近な野菜（ジャガイモ、ニンジン、玉葱、トマト、ナス、キュウリ）やホール野菜（南瓜、白菜、キャベツ）を用いて行い、大きな南瓜・白菜が浮くことに園児たちから驚きの声が上がりました。土の中で育つ野菜は沈むことが視覚的に分かったようです。法人の畑での芋掘りや大根の収穫体験の際には、「お芋は沈むね！」と、つぶやく等、経験が生かされており、食育につながる実体験となっています。食材作りでは、大根をピーラーで皮を剥き（年齢に応じて介助）、乾かして切り干し大根を作り、給食で食しています。子どもたちは、

苦手な野菜も体験を通して、食べてみようとする姿が見られます。毎日の給食も楽しく、美味しく食べられるよう工夫しています。調査日は、子どもたちに大人気の「レバーのごまソースからめ」で、調査者も給食の提供を受け、レバーの味付けは絶妙で、とても美味しく、人気の理由が分かりました。毎月の誕生会や行事メニューもアイデアに溢れ、子どもたちの歓声が上がったことが、写真を通して実感できました。

#### 4. 【働きやすい職場環境への取組み】

園長は、職員が和気あいあいとした雰囲気の中で、仕事ができる環境作りを目指しています。一人ひとりの職員とのコミュニケーションを図ると共に、ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っています。ICT化を図り、残業要因となる事務作業の時間は、勤務時間内で処理できるよう配慮しています。また、休暇が取りやすく、急な休みにも対応できるような職員体制に努めています。当園の定員は30名ですが、常勤10名、非常勤5名が配置され、支援が必要な子どもに1対1で寄り添う保育ができています。園長は「職員が笑顔で楽しいと思える保育が子どもを笑顔にする」との信念で、「やりたいことができる保育」を推進しています。職員も子どもも笑顔が溢れて「あったかい」想いが伝わってきました。今後も職員が働きやすく、長く働きたいと思える職場環境作りの推進に期待します。

#### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 学校法人柿の実学園 くぬぎ保育園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取組の感想》

第三者評価＝とても堅苦しいもの、というイメージがあり、自己評価においても難しく考え、回答し辛い部分がありました。

しかし、評価を受審した2日間は、和やかな雰囲気の中、様々な振り返りをすることができました。

評価を通して、保護者の皆さまへの対応や職員同士の話し合いの場も改めて作ることができ、良い機会となりました。ありがとうございました。

《評価後取組んだ事として》

1. 職員とのコミュニケーションをさらに多くし、お互いの保育感を知ることができました。

2. 保護者への周知部分では、今まで以上に分かりやすく伝えるようにしました。

3. 次年度に向け、職員が同じ方向に向かえるよう話し合うことができました。

#### ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり